

実践事例

- 1 立川市立けやき台小学校
- 2 小平市立小平第六小学校
- 3 多摩市立多摩第一小学校

推進校は、動物の適正な飼育や動物愛護の心を培う体験活動の実施に向け、研修会を行っています。その際、学校担当獣医師から、動物飼育に関わる専門的な内容について指導を受けています。



1 立川市立けやき台小学校

【実践の概要】

研修会を開催し、教員が学校担当獣医師から、ウサギの特徴や飼育の仕方についての話を聞いた。実際に、低学年が体験活動として行う心音を聴く活動を行ったり、教わった抱き方を試したりした。

それまでは、飼育担当の教員だけがウサギの飼育について学んでいたが、学校全体で共通認識をもつことができた。また、夏季・冬季休業前の飼育の仕方についても助言をもらい、飼育環境について考える機会となった。



聴診器を当てて実際の心音を聴いている様子

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

学校担当獣医師に資料を用意してもらったため、ウサギの特徴について短時間で理解することができた。また、事前に担当教員と学校担当獣医師で打合せをしておいたため、質疑等を含めて充実した研修を行うことができた。

【教員の反応】

- 飼育担当になったことのない教員は、「飼育担当の教員が中心だったので、今まで関心が薄かったが、この研修会で実際に学校担当獣医師の先生に教わり、ウサギに関心をもって関わるようになった。」と話していた。
- 研修を終えて、「今までウサギの接し方等を学ぶ機会がなかったので大変有意義であった。今年度初めて飼育担当になったが、児童への指導にも役立った。」という意見もあった。
- 研修会で関心をもった教員は、低学年の体験活動に積極的に参加していた。授業の中でも、「研修会で学んだことを活用し、児童への支援に生かした。」と感想を述べていた。
- 飼育担当の教員は、「全ての教員で共通認識をもてたことがよかった。飼育担当の教員だけで考えるのではなく、学校全体の飼育動物と考えることの大切さを学んだ。学校担当獣医師が言っていたとおり『どの教員も愛着や関心をもって動物に関わることで、その思いが児童にも伝わる。』ものだ実感した。」と感想を述べていた。





2 小平市立小平第六小学校

【実践の概要】

今年度は、学校担当獣医師による飼育担当の教員を対象とした研修を実施した。本校が飼育しているウサギとモルモットの習性や飼い方について学んだ。

また、かかりやすい病気を予防するための一般的な注意事項や、病気にさせないためのポイントについても学んだ。その後、児童に飼育を行わせる場合の注意事項も教えてもらった。

さらに、学校では難しいウサギの爪の切り方等も実際に見せてもらった。



獣医師から指導を受けている様子

【学校担当獣医師との連携】

昨年度は全教員に対しての研修を行っていたので、今年度の研修では、基礎的な内容は軽く扱う程度とし、飼育担当の教員を対象に、日頃注意することを中心に行うことを事前の打合せで確認した。また、飼育委員会の児童に対する支援の仕方も、教えてもらうようにした。

【教員の反応】

- 飼育担当の教員は、飼育委員会の児童に対する支援の仕方を学んだため、自信をもって関わることができると話していた。
- 体重の変化をしっかりと記録することが大切だということを確認し、飼育委員の日常の活動の中に体重の測定も加えることにした。





3 多摩市立多摩第一小学校

【実践の概要】

本校で飼育しているヤギの習性や接し方、飼育方法等について、教職員を対象とした研修会を設定した。

【学校担当獣医師との連携】

管理職を中心に、現在の飼育状況やヤギの生育状況について、継続的に学校担当獣医師に相談し、指導を受けた。今後予定している体験活動等が効果的に実施できるよう研修会の内容について打合せを行った。

【教員の反応】

- 研修を通して「ヤギが嫌う行為」や「ヤギの喜ぶ行為」について知ることができ、児童への指導に生かすことができた。
- 研修で学んだことを基にヤギの飼い方等に関わる紙芝居を作成し、児童が世話をする際の事前指導に活用した。
- 学校担当獣医師の話から、人間が動物と触れ合うことは、生命を尊重する態度を養い、「自分を大切にすること」や「友達を大切にすること」につながることを再認識した。今後、ヤギとどのように関わり、どのように授業を進めていけば、児童が生命の尊さをより感じるができるかを考える機会となった。

